

**関西  
ステンレス**

# 現物タイト感残るも上伸力欠く

(大阪) 関西地区のステンレススクラップ相場は上げ一服気配で様子見商状。9~10月にかけて輸出高や現物確保への対応がすすみ、市況は個別対応を中心としながらも計10円上昇する動きとなった。足元でも市中の現物タイト感は根強く堅調感を保つものの、国内ミルの減産基調やニッケルの軟調推移、輸出筋の見守り姿勢で、ここからの上伸力は乏しくなりつつある。

国慶節明け後の中国向けの輸出筋らの実勢買値は幅広い価格帯ながら190~195円見当で上値の更新は聞かれない。集荷意欲は底堅い様子だが、中国現地のSUS304スクラップ相場は円換算で足元195~200円前後(10月第3週時点)とされ、ある商社筋は「ここ2カ月間で日本国内の相場が切り上がり、商いの旨味が薄れている。足元は思惑買いも聞かえない」と話す。

韓国向け輸出大手のSUS304新切れの仕切り値も実勢中心値が190~195円見当で推移。販路の拡大や絶対数量の不足懸念で集荷意欲は強い半面、ニッケルの軟化で販売価格が弱含みで推移するため、ある納入筋は「自ら上値を更新することはせず、相場見合いの購入姿勢だ」と指摘する。ただ、10月から韓国大手ミルが

スクラップの配合比率を高める動きが伝えられており、今後の動向に注目が集まる。

一方、国内ミルの買値も9~10月にかけて個別対応を中心に切り上がり、足元の実勢値は190~195円見当。高炉系大手などに購入制限の幅を緩和する動きが伝わるが、特殊鋼ミルをはじめ他社の買い気は乏しいまま。ある問屋筋は「供給不足の懸念で堅調感は残すものの、ニッケル安などを踏まえると市況全体を押し上げるほどの力強さはなくなってきたのでは」と語る。

LMEニッケル・ステンレススクラップ相場推移

	LMEニッケル相場 (月平均) \$/MT	LME NI在庫 (期末/ト)	ASIA・SABOT \$/MT	フェロクロム相場 高炭素品・\$/Lb	為替相場 (TTS)
2020年平均・合計	13,773	246,708	1,198	118.75	107.82
2021年平均・合計	18,478	101,886	1,659	160.38	110.80
2022年平均・合計	25,638	55,476	1,929	189.25	132.43
2023年1月	28,240	49,374	1,730	157.00	131.35
2月	26,690	44,148	1,660	157.00	133.75
3月	23,307	44,364	1,490	157.00	134.92
4月	23,757	39,918	1,470	180.00	134.40
5月	22,230	37,782	1,460	180.00	138.43
6月	21,193	38,850	1,440	180.00	142.27
7月	20,898	37,536	1,410	159.00	142.30
8月	20,498	37,194	1,430	159.00	145.84
9月	19,629	42,228	1,430	159.00	148.73
10月	18,396	42,870	1,360	161.00	150.27

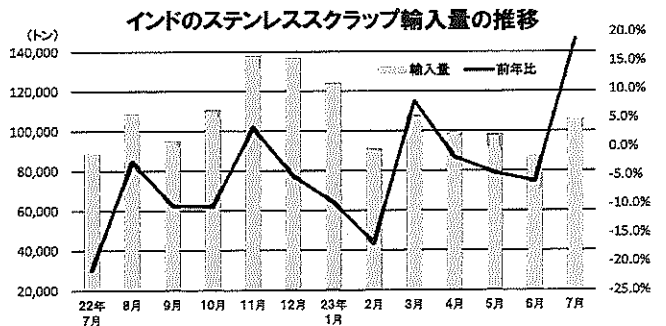
※10月は16日までの平均値

## インドのSUSスクラップ輸入 4カ月ぶり10万ト超え 7月10万6千ト

インドの7月ステンレススクラップ輸入量は前月比20.9%増、前年同月比18.8%増の10万6102トだった。主要輸入先である米国からの数量が前月から大幅に増加。全体量は3月以来4カ月ぶりに前年実績を上回ったほか、10万ト超えの高水準となった。

輸入先で最多は米国からで、前月比43.8%増、前年同月比35.8%増の1万7754ト。次いでマレーシアからが同19.7%増、同11.4%増の9,707トだった。一方、日本からは同38.9%減、同87.6%増の2,368トだった。

1~7月の累計輸入量は計71万5335トで、前年同期比



2.7%減となった。

## 富士興産、本社事務所の内装をリフォーム

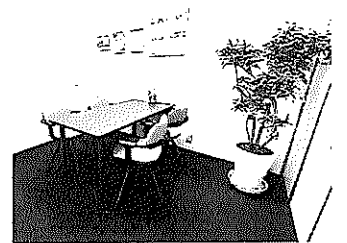
(大阪) レアメタルやレアアースのリサイクル事業を手掛ける富士興産(本社=大阪市浪速区、赤嶺和俊社長)はこのほど、進めていた本社事務所の内装リフォームの工事が完了した。



事務所入り口

同社では今年8月にも主力拠点の大正工場・倉庫事務所棟の増改築工事を実施しており、快適な職場づくりに取り組んでいる。今回のリフォームもその一環で、事務所の入り口からはレンガ調や芝生調にあしらった内装になり、効果的に観葉植物を

配置し、全体的に明るく自然な空間を演出。公園の休憩所をイメージしたという商談ブースはデザイン性が高く、グッドデザイン賞に選ばれたチェアセットと緑色が共にアクセントになっている。



商談ブース

赤嶺社長は「リフォームはSDGsを推進する会社として、明るく和やかな雰囲気を出せるように心掛けた。これからも社員が気持ちよく仕事に取り組めるようなアイデアを提案していきたい」と話す。